

子どもの命を守る

事故対応のシミュレーション

巡回訪問つうしん9号
令和3年3月号

シミュレーションはなぜ必要なの？

園生活では、食事、睡眠、プール水遊び、散歩など日常の活動の中で重大な事故が発生する可能性が多くあり、各園、それぞれ事故防止、事故対応のマニュアルが作成されています。

でも…実際に、事故が起きたらマニュアル通り実行できるでしょうか

目の前で事故が起こった時に、研修で習った事やいつもなら出来ていた事が、とっさには確実にできない可能性があります。

地震、火事、水害などの災害対策として避難訓練を実施しているように事故発生時、園としてそれぞれの役割分担でどう対応するかを想像し、速やかに対応できるようにするためには、様々な状況に応じた役割分担の訓練(シミュレーション)を行うことはとても大切です。

様々な場面を想定した訓練を繰り返し行い、実際に事故が起きた場合に、慌てず焦らず各自が冷静に役割につき、事故対応ができることを目指します。

1 シミュレーションを考えてみましょう！

① 場面を想定します

想定される事故の例

- ・ 食事… 窒息、誤飲、誤嚥、アレルギー誤食
- ・ 睡眠… 窒息、SIDS、けいれん
- ・ プール… 溺水、転倒
- ・ 散歩… 骨折等の怪我、行方不明、交通事故
- ・ 園内… 玩具等の誤飲
扉やサッシの指挟み
子ども同士の衝突
遊具からの転落、園からの抜け出し

② 発生時間、体制を設定します

想定される体制の例

- ・ 朝夕の延長保育
- ・ 異年齢保育
- ・ 園長、施設長不在時
- ・ 一時保育
- ・ 平日
- ・ 土曜日
- ・ 日曜日

など

③ 対応の役割分担を決めます

想定される職員の役割の例

- ・ 全体把握と指示
- ・ 応急処置
- ・ 子どもの観察
- ・ 記録
- ・ 救急車を呼び
- ・ 連絡（園内・保護者・関係機関）
- ・ 応援
- ・ 事故にあった子ども以外の子どもの保育 など



2 シミュレーションを行ってみましょう！

(例1) 自園のマニュアルに沿って行う。

参考：「事故防止と事故対応」P24の救急対応マニュアル

(例2) 事故防止のフロー図に沿って行う。

参考：「事故防止と事故対応」P18、P19の事故対応フロー図
(当日の動きの部分をご参考ください)

(例3) 事故対応の進行シナリオを作成して行う。



横浜市
「事故防止と事故
対応」で検索🔍



3 訓練後、課題を見つけてみましょう

- ・ 役割分担はスムーズでしたか？
- ・ 改善点、修正点はありましたか？
- ・ 心肺蘇生法、AEDの使用など研修通りにできましたか？

4 各園のマニュアルを見直してみましょう

- ・ 一人一人が状況に応じた冷静な判断、速やかな対応や役割分担ができるようになる事はとても重要です。
- ・ 園全体で共通認識を持ち、園の危機管理を高め保育の質の向上につなげましょう。

事故発生後、保護者への報告、重大事故の場合は事故報告書の作成が必須です！

報告を正確に伝えるためにも事故発生時に記録を取っておくことが必要です。事故が発生した時間、場所、子どもの状態、対応した職員の状況を記録することを、シミュレーションの段階から練習しておきましょう。

記録について



実践の一例として以下に「進行シナリオを作成して行う方法」の事例を2例挙げました。事故が起きた設定で、発生後15分程度の職員の動きを想定し、シナリオを作成して行うものです。15分間という時間を設定することで、シミュレーションの実施時間は短時間で済みますし、進行シナリオを作ることで全体の動きを時系列で理解できます。

- 作成する時は、
- ・ 自園の職員体制、時間帯を考慮して可能な設定をしてみましょう。
 - ・ 対象は、保育士だけでなく、園の職員全員です。園全体でどのように連携するかが大事なポイントです。
 - ・ 役割分担の中に全体を客観的に見る人を決めておきましょう。
- 訓練中の職員の動きを確認することで終了後の課題を見つけることに繋がります。



事例1 誤飲・誤嚥の場合		0歳児！ トーストパンが喉につまった！ 命を救え！				
設定	0歳児：9名 担任3名 <保育士① ② ③ フリー保育士④> A君：11か月					
当日の設定	給食メニュー <トーストパン1/8カット、シチュー、茹で野菜、みかん> 保育士①、②、③は、0歳児3名の各テーブルにつく。保育士④は、食事時の応援					

状況	役割	発見者	指示	他児の保育	応援・連絡・記録	リーダー
		保育士①	保育士②	保育士③	保育士④	園長
11:10 発生	A君がトーストパンを口に詰め込み、口元に手を当てて苦しんでいる	他の保育士にA君の異変を伝える ↓ 背部叩打法で背中を叩く	保育士①に背部叩打法の指示 保育士④に園長に報告を指示 保育士③に1歳児クラスに応援の要請指示	1歳クラスに応援依頼	園長に報告	報告を聞く ★救急車要請指示
11:13	顔を真っ赤にして苦しんでいる	保育士②と交代	胸部突き上げ法を開始	1歳クラスへ他の8名の子ともと移動 ⇒ 保育	119番通報	AED準備
11:14	顔面蒼白 呼吸停止	保育士①と交代	胸部突き上げ法と背部叩打法を交互に繰り返す 心肺蘇生開始 AED装着 AED使用	園内の職員に状況周知	園内の職員に状況周知 救急車の誘導玄関へ	保護者に連絡
11:19	パンの塊を嘔吐し、意識が戻る	心肺蘇生開始				
11:22	救急車到着(通報から9分後)		搬送準備		救急車、救急隊員の誘導	
11:23	救急隊員に引継ぎ	状況説明	状況説明			保護者に連絡
11:25		救急車同乗			状況の記録	関係機関に連絡

<救急措置方法>
 1. 反応がある場合
 背部叩打法と胸部突き上げ法を、異物が取り除けるか、反応がなくなるまで交互に繰り返します。

- 背部叩打法：救助者の片腕の上に乳児をうつぶせに乗せ、手のひらで乳児の顔を支えながら、頭部が低くなるような姿勢にします。もう一方の手の付け根で、背中の中を強く数回連続して叩きます。
- 胸部突き上げ法：救助者の片腕の上に乳児の背中を乗せ、手のひらで乳児の後頭部をしっかりと支えながら、頭部が低くなるよう仰向けにし、もう一方の手の指2本で、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とする胸骨の下半分を強く数回連続して圧迫します。

※1歳児以上の場合は、背部叩打法と腹部突き上げ法（ハイムリック法）を繰り返し行います。

2. 反応がない場合
 心配蘇生を行ってください。（胸骨圧迫30回：人工呼吸2回）

事例2 園庭遊び中の怪我の場合		ジャングルジムから転落！ 全身を確認！			
設定	4歳児：16名 担任2名 <保育士①、②、フリー保育士③> A子：5歳6か月				
当日の設定	4歳児クラス単独で園庭遊び中				

状況	役割	発見者	他児の保育と指示	応援・連絡・記録	リーダー
		保育士①	保育士②	保育士③	園長
10:30 発生	A子が、ジャングルジムから滑り落ち、直後にその場にしゃがみ込むその後泣き出す顔色は蒼白	ジャングルジムのそばで見守り中 A子の様子にすぐ気づき、周囲の保育士に声をかけ異変を知らせる	全体の様子を見守り中 保育士①の声で異変に気づく		
10:33	足の痛みを訴えて泣きながらも、少し落ちついてくる ◆頭を打った可能性もある	A子の全身状態の確認、嘔吐に備えて横向きに寝かせる A子が安心できるような声かけをして様子を見守る	他児を集める（人数確認・座らせる） 応援職員を呼び、園長への報告を指示	園長に報告 園庭に応援に行く	緊急時は救急車！ A子のけがの状況を確認 ★救急車要請を判断
10:34			保育士③と一緒に他児を入室させる	入室援助 他職員に状況周知	119番通報 保護者に連絡
10:43	救急車到着（通報から9分後）			救急車・救急隊員の誘導 搬送準備	救急車を呼ばない判断の場合でも受診はする！
10:44	救急隊員に引継ぎ	状況説明			保護者に連絡
10:45		救急車同乗		状況の記録	関係機関に連絡

《事例1、2共通事項》

※時間は15分設定で、職員の数に合わせて同じ設定で数回行いましょう。
 ※事例の参加人数は、園の実情に合わせて保育士の役割を増減して訓練しましょう。
 ※事例2の園庭遊びは、散歩時の公園に設定する等も可能です。
 ※事例のように、怪我の状況は、複数の職員で確認をしましょう。
 ※可能ならば、訓練を客観的に見られる職員配置をしましょう。

<救急車を呼ぶ時>
 ①住所、電話番号、園・施設名
 ②連絡者名
 ③誰がどうしたか（園児名・年齢）
 ④状態（呼吸・意識・会話可能かどうか）
 ⑤施設に向かう目印

<救急車を待つ間の準備…メモの用意>
 ①子どもの名前 ②生年月日 ③住所
 ④身長・体重
 ⑤保護者の名前と連絡先電話番号
 ⑥保険証番号
 ⑦アレルギー、使用中の薬、持病
 <区へ連絡> 045-000-0000

※ 例では、救急処置を行う職員は2人ですが、1人で対応したり、他職員も役割をいくつか兼ねる場合もあります。緊急時は、一刻も早い発信（状況を伝える ⇒ 救急車の要請）がとても重要です。

